

3. 内視鏡検査室での外部委託スタッフ業務拡大により生じたメリット

九州大学病院 医療技術部臨床工学部門¹⁾ 看護部²⁾ 光学医療診療部³⁾
峰 慎太郎¹⁾、松岡 謙治¹⁾、清藤 美子²⁾
藤岡 審³⁾、森山 大樹³⁾、清水 周次³⁾

【背景・目的】

はじめに、近年、当院における内視鏡検査数は増加の一途を辿っており、それに伴い患者の待ち時間が延長している。また、検査時の苦痛軽減のために鎮静剤を用いるが、検査後の鎮静からの回復に時間がかかり、検査室運営効率が悪くなる要因となっている。結果、時間外検査が増加し、医療スタッフ、特に看護師の時間外労働時間延長が大きな問題となっている。この患者と医療スタッフの両方に負担がかかっている状況の問題点を把握する目的で、まず医師・看護師・看護助手・臨床工学技士を対象としたアンケートを実施した。その結果、人的不足、特に看護師不足が明らかとなった。そのため、一部の看護師業務を外部委託することとした。具体的には、病院に常駐していた外部委託スタッフ2名を増員し、それまで外部委託業務の範疇であった滅菌や洗浄管理だけでなく、医療スタッフが行っていたスコープの運搬・点検、検査室の片付け等の業務も委託することとした。今回、このように外部委託スタッフの業務拡大を行ったことで、①内視鏡検査室の運営の効率化が図れたか？②看護師の負担軽減、特に時間負担軽減となったか？の2点に関して検討を行った。

【方法】

- ①検査間の時間を短縮できたかを検討する目的で、富士フィルム社製Nexusシステム上の記録を抽出した。具体的には、前の患者の検査終了時刻の記録から次の患者の検査開始時刻までの時間を算出し、外部委託スタッフ業務拡大の導入前後で比較した。
- ②看護師の時間外労働時間を時間外勤務簿より抽出した。外部委託スタッフ業務拡大導入前の2014年4月の1ヶ月間の1人あたりの時間外労働時間の平均を、導入後の2015年4月のものと比較した。統計解析はt検定を用いて、 p 値 <0.05 を有意差ありとした。

【結果】

①検査間の時間は、導入前 32.9 ± 3.4 分、導入後 23.1 ± 2.6 分 ($p=0.00017$) と有意に短縮した。また、②看護師の1ヶ月の総時間外勤務時間は、導入前 17.7 ± 8.7 時間、導入後 6.9 ± 4.8 時間 ($p=0.0075$) と、こちらも有意に短縮した。

【考察】

内視鏡検査室での外部委託スタッフ増員、業務拡大に伴う検査効率化と看護師の負担軽減について検討を行った。結果より、外部委託スタッフ増員、業務拡大によって検査間時間の短縮、および看護師時間外労働時間は有意に短縮した。

おわりに、今回は検討を行っていないが、短縮した患者待ち時間を定量的に評価できるよう検討を続けたい。